

各地よりのたより

紀伊支部通信

1) 四月例会 學年始め、その他一同多忙のため中止。

五月より舊本會員島田晋村氏再び復活入會せられ、又、新に縣廳に勤めてゐられる木村直樹君入會せられ、本協會員は増加、非常に力強くなつた。島田氏は縣下に於ける天文界の草分けで古顔、阪田氏と共にリ1ダ1であり、木村君は新鋭にて、將來實地觀測に専念せられる由。

2) 五月例会 五月十一日20時より野村方にて今夏の講習會開催(別項参照)に關して打合會として開催した。阪田、島田、木村、野村、橋、それに高商の新谷君を加へて、打合せを終つた。終了24時。

3) 六月例会 第二回打合會を兼ねて、六月上旬開催豫定。

(五月12日、和陸赤院にて 野村記)

編輯局より

本誌は、第18巻の初め(第199號)から、天象欄の報告を、一ヶ月づつ進めて例へば、一月號に2月の天象を、二月號に3月の天象を……といふ風な載せ方をして來ました。之れは、會の創立以來、だんだん海外の遠い地方にも會員が増しましたので、採つた方針であり、又、一般に大に觀迎せられつつあります。

“そんなら、なにも、2月の天象を載せてゐる號を、物ずきに、一月號と呼ぶ必要が無いではないか?! 3月の天象を載せてゐるものは、つまり、三月號ぢやないか?”といふ聲が最近、諸方から聞えて來ました。實際、その通り、こだはる必要は無いのです。そこで、こうした内容と號數の調整、其の他、ついでに此の際、いろいろの改良を施し、雑誌の面目を一新しようといふことになりました。そして、今後、大體、次ぎのやうに編輯することに決定しました。ダブル・ナンバを一回だけ作るのは、奇數號に奇數月を、偶數號に偶數月をといふ本誌の永い傳統を便利なものとして繼承するためです。

第20巻	第230號	1940年	“六月號”	五月25日發行	七月の天象所載
“	第231號	“	“七月號”	六月25日	“ 八月の天象
“	第232號	“	“八月號”	八月1日	“ 九月の天象
“	第233號	“	“九月號”	九月1日	“ 十月の天象
“	第234號	“	“十月、十一月、十二月號”	十月1日	“ 十一月と十二月の天象所載
第21巻	第235號	1941年	“一月號”	十二月1日	一月の天象所載
“	第236號	“	“二月號”	一月1日	“ 二月の天象